

はじめに

- ①パラダイムシフトを迎える世界  
・多極化・多様化の進展を背景に、世界は新たな国際秩序形成を模索
- ②厳しさを増す国際競争  
・企業だけでなく、国や個人も国際競争を余儀なくされる展開に
- ③山積する国内課題  
・財政・社会保障制度等、国内の諸課題の解決先送り

「好きだけど、誇れない二流国」  
へ転落する懸念

国内に差し込む希望の光  
・震災後高まる利他の精神  
・アベノミクスの効果

持続性確保に向け  
「新たな国の方向性」を示すことが必要  
⇒「日本力」を出発点とする  
強点発揮型アプローチの導入

好きで、誇れる  
一流国へ

### 第1章 現状認識

1. 世界の情勢
- (1) パワーバランスの変化  
先進国の低迷、新興国の台頭 等
  - (2) 主体の多様化  
巨大企業、国際テロ組織 等
  - (3) 新たな問題の出現  
地球環境問題、サイバー攻撃 等

⇒世界は新たな国際秩序形成へ

2. アジアの情勢
- (1) 世界の注目を集めるアジア  
中国の台頭、成長センター 等
  - (2) 活発化する多国間協調  
包括的な経済連携の枠組みの模索 等

⇒米国外交戦略のアジア重視へのシフト

3. わが国の情勢
- (1) 国際的地位の変化  
世界第3位に転落したGDP 等
  - (2) 厳しさを増す安全保障環境  
領土・領海を巡る緊張 等
  - (3) 経済の長期低迷、課題の先送り  
財政・社会保障制度の行き詰まり 等

- ①世代間の溝の深まり
- ②多様性を活かしかねない  
経済・社会システム
- ③持続性のない政策

自国は他国よりも良いと思う	日本5位/34か国
自国に対する誇りを持っている	日本92位/95か国

「好きだけど、誇れない二流国」  
へ転落する懸念

### 第4章 新しい日本のあり方

■基本理念

しなやかな一流国

「力強さ」と「柔らかさ」を兼ね備えた国

自立

- 国際社会の信頼と負託に応える「自立国家」
- 国民や企業、地域、行政などの確固たる自立

+

連携

- 諸外国と協調・協働できる「連携国家」
- 国民や企業、地域などが互いに緊密に連携

■具体的な国家像

柔構造  
の国

①国土の多極化

・一極集中を是正し、自立した地域  
が独自の存在感を発揮する国

②ダイバーシティ(多様性)の確保

・様々な価値観を尊重し、  
老若男女が活躍できる国

③柔構造の一つの  
柱としての関西

・柔構造化を進める上での要(ゆなめ)

関西

アジアの重心  
となる国

①アジア地域において存在感を発揮する国

・アジアの経済発展への貢献  
・社会基盤整備への貢献  
・「面」の連携、平和的安定への貢献  
・持続的発展への貢献

②アジアの中の関西

・日本とアジアを繋ぐ日本の玄関口  
・わが国の歴史・文化の発信拠点

- ・明確なアイデンティティが確立された国
- ・国際社会に貢献し信頼される国

好きで、誇れる一流国へ

### 第2章 強点発揮型アプローチによる「日本力」活用

「日本力」を出発点とする 強点発揮型アプローチ の導入

日本力

- (1) 日本**の**強み  
心(精神面) : 利他主義の精神、安心・安全 等 (和魂)  
技(技術面) : 世界第3位の特許出願件数、ポップカルチャー 等 (和才)  
体(能力面) : 約1500兆円の個人金融資産、海洋資源 等
- (2) 隠れた**日本**の強み  
教育水準の高い女性 : 潜在的な労働者として日本の持続的発展に貢献 等  
元気な高齢者 : 地域活性化の原動力、社会保障の持続性確保に貢献 等  
フロンティアとしての地方 : 新たな産業・雇用創出の場、国の牽引役 等
- (3) 若者力  
隠れた強み(新しい感性・価値観、環境変化への順応力、ネットワーク力、大きなポテンシャル 等) + ITリテラシー(情報活用能力)、発信力 等  
※若者力を「活かす」「支える」「伸ばす」という視点が重要

⇒別冊 若者ハンドブック参照

### 第3章 新しい時代の一流国像

従来型の一류国※ ⇒ 新しい時代の一류国

- 力強さ
  - ・経済力
  - ・防衛力(軍事力)
  - ・グローバルなビジョン
  - ・国際社会におけるリーダーシップ
- +
- 情報通信力  
(情報収集・分析力) 等

「力強さ」のみを前提と  
した一流国の限界

- 柔らかさ
  - ・先見性
  - ・多様性
  - ・寛容性
  - ・協調性
  - ・文化力 等

※第3次アーミテージ・ナイ・レポートに記載されている定義

### 第5章 一步前に進めるために

1. 自立に向けての第一歩

- (1) 持続力の確保
  - ・個人や企業の活力を引き出す規制・制度改革
  - ・将来の「安心」を提供する社会保障制度改革
  - ・地域特性に合わせた特区の大胆適用
- (2) 決断力の獲得
  - ・国会における衆参両院の役割・権限の見直し
  - ・国家的課題に対して真の国民合意を形成し得る制度の検討
  - ・大学・企業におけるリーダーシップ教育の充実
- (3) 責任力の強化
  - ・家庭や初等教育における責任意識の醸成
  - ・大学入試や企業採用の「基準」見直し  
(責任感や国際感覚等の重視)
- (4) 発信力の向上
  - ・国際世論への戦略的・効果的な働きかけ  
(対外発信の量と範囲の拡大)
  - ・国家としての主張の一貫性・持続性確保

2. 連携に向けての第一歩

- (1) 国際協調の深化
  - ・包括的な国際的経済連携の推進
  - ・官民連携に基づく、アジア地域への運営ノウハウ  
を含めたインフラ輸出の拡大
- (2) ネットワークの強化
  - ・日・米・アジア三者間における民間レベルの  
継続的交流機会の創出・拡大
  - ・アジアからの留学生や企業人材の受入拡大

3. 企業人の果たすべき責務と行動

- (1) 経済活動を通じた日本の活性化
  - (2) 多様な社会の実現に向けた取組
  - (3) 「しなやかな一流国」を支える人材育成
  - (4) 国際社会における人的交流とパイプ作り
- (1)~(4)を通じて、若者の力を  
「活かす」「支える」「伸ばす」